

ネモフィラ



学年通信の名前が決まりました。『ネモフィラ』。ネモフィラ全体の花言葉は「どこでも成功」「可憐」「あなたを許す」です。愛らしいイメージのネモフィラですが、強い生命力を持ち、多少の日陰やアスファルトの間でも、ぐんぐん育っていく丈夫な一面も。そんな特徴から「どこでも成長」という花言葉がつけられたそうです。沢山のネモフィラが寄り添って咲く様子に目が行きがちですが、小さい花びらの中に織りなされる青のグラデーションも美しい花です。この花のように、一人一人が逞しく成長し、他者を許せる人になってくれれば…。名前を考えてくれた皆さんありがとうございました…



来週の予定

一度消滅した梅雨前線が復活し、今週は梅雨らしい日が見られました。気温が高く、湿度も高い日が続きますが、そろそろ梅雨明けも噂されるこの頃。本格的な夏に向けて気合だー！



日	曜	学校行事等	持ち物・提出物
30	月	50×⑥ 体力テスト終了	白衣
1	火	50×⑥ 安全指導（水難事故）	
2	水	50×⑤ 部活動そのまま実施（再登校なし）	
3	木	50×⑤ 小中連携 牛乳パック回収 部活動再登校 16時 掃除なし	
4	金	50×⑥	白衣持ち帰り

※ 来週からは体育でプール指導が始まります。プール道具を忘れないことは勿論ですが、使った水着類は必ず持ち帰って洗濯しましょう（`ー´）ノ。この季節、持ち帰り忘れた水着はすぐにカビてしまいます…。カビ臭い水着を着たくありませんよね（-_-）

※ 来週の2日（水）は部活動の再登校がなく、3日（木）は部活動の再登校があります。注意を！！

夏だ！！プールだ！！サマーランドだぁ！！

あたしゃ別にサマーランドの広報官をしているわけではありませんが、夏と言えばプール。教室の背面黒板に書かれた来週の授業予定にもプールの文字が見られる季節になりました。泳ぎが苦手な人もいられるかもしれませんが、泳げるようになって損はない。江戸川区が産んだスーパースター、目指せ池江璃花子さんです。彼女は小岩第四中学校出身のスイマー。中学校在学時の授業を受け持った体育科の先生に聞くと、手に水掻きが付いているんじゃないかって思うほど、一回の動きでスーっと進んでしまったそうです。口は悪いですが、「あの子の泳ぎは人間ではなく、河童みたいですよ！！」と仰っていました。まあ、河童は無理でも人並みに泳げるようになればいいねえ。7月の安全指導は水難事故について学びます。夏休みを目前に控え、おじいちゃん、おばあちゃんの家に行く機会もあるかと思います。海や川に出かける機会もあるかもしれません。毎年繰り返される痛ましい事故の当事者にならないように、また、そういった場所で危険な行為を見かけた際に、事故を未然に防げる人になれるように、内容を十分理解してください。自分は小さい頃から夏休みになると山形のじいちゃん家に行っていました。海水浴場歩いて1分くらいの所にあり、小さい頃はそこでハマグリを取ったり（今でもとってる）、ヤスで魚を突いたり（とったど〜）して毎日を過ごしていました。しかし、そんな海には事故もつきもの。海で泳いでいると救急車代わりの車が赤色灯を回し、サイレンを鳴らしながら走っていった記憶があります。そこで、海でおぼれそうになった時の鉄則。まずは潮の流れに逆らおうとしないこと。大体は離岸流に逆らって岸に戻ろうとして体力が奪われ溺れる。沖に流される時は、岸と並行に（横に）泳いで離岸流から抜けてから岸に向かうか、助けが来るまで浮いて流されちゃう。海の水は案外浮くものです。ただし、監視員がいない海、浅くても流れの速い川は絶対入らない。何度か流されたおじさんからの助言です

裏面に続く

年寄りのつぶやき

みんなが期末考査の勉強で四苦八苦している頃、様々なメディアで太平洋戦争の激戦地となった沖縄戦のニュースが流れていました。戦争末期、アメリカ・イギリスを中心とした連合軍が上陸し激戦が行われた歴史についてのニュースでした。沖縄戦は1945年(昭和20年)3月26日から始まり、主な戦闘は沖縄本島で行われ、沖縄本島での組織的な戦闘は4月1日に開始、6月23日に終了しました。ちょうど期末考査の1日目です。沖縄戦では、9万人をこえる民間人を含む、20万人弱の命が失われたといえます。

連合国は上陸に先立ち、海上からの艦砲射撃にて島の形が変わるほどの砲撃を実施。その攻撃はすさまじく、その砲撃によって、一瞬にして隣にいた友人が無残な姿に変わり果てたという話は無数に報告されています。皆さんと同じ年代の人達は、きのみきのままの姿で森の中をさまよひ、艦砲射撃や戦闘機からの銃撃から逃げながら、次々に命を落としていったそうです。その悲惨さは、ここに書くことをためらうほどです。南方の戦線では、補給路の確保もないまま多くの軍人が、飢餓と疫病に苦しみながら、玉砕と呼ばれる非業な死を遂げていましたが、これほどまでに民間人が犠牲になった戦いは、東京大空襲をはじめ、各地で行われた大規模な空襲、そして、広島、長崎への原爆投下と悲劇が繰り返され、終戦への道のりを歩んでいきます…。

9年前、バスケットボールの全国大会(いわゆる全中)で初めて沖縄を訪れました。那覇空港まで沖縄県中体連の役員の先生がお二人迎えに来てくださり、大会で使用する3会場を訪問し、各会場への挨拶や最終確認を済ませた帰り道の事です。迎えに来ていただいた久志先生、新城先生に、沖縄県の皆さんが大切にしている言葉はありますか?と尋ねたところ、沖縄県の方言で「ぬちどう宝」という言葉を教えてくださいました。皆さん意味はわかりますか?意味は、「命こそ宝」という意味です。沖縄戦を経験したおじい、おばあの人達は、生きている事こそ宝だという意味で、この言葉を大切にしているとのことでした。役目柄、全国大会の開会式では開会宣言をしなくてはならず、いつもいい加減な話ばかりしている自分でも、開会宣言は3分ほどの文章を作って沖縄を訪れました。しかし、この言葉を伺ってどうしてもこの言葉を開会宣言に入れたいと思い、開会式前夜に開会宣言を書き換えました。大会が無事終了し、たまたま教え子同士が結婚して沖縄に住んでいたこともあり、教え子の家に泊めてもらい様々な所に連れて行ってもらいましたが、看護師として従軍させられた「ひめゆり学徒隊」の戦争体験を伝える、ひめゆり平和祈念資料館(ひめゆりの塔)で見聞きした内容は、想像を絶するものでした。飛び交う砲弾の中で、一人、また一人と命を落としていく中、いったいどんな思いで森の中を逃げていたのか。洞窟(ガマ)の中で息をひそめ、希望の持てない日々をどう過ごしたのか。その思いや記録がそこには沢山見受けられました。同じ立場として、教え子たちに無理を強いて戦地に向かわせた教師の懺悔。沖縄戦で非業の最後を迎えた人々の中には、写真さえ残っておらず、命日さえ不明な人たちが沢山います。ひめゆり平和記念資料館の敷地前にある洞窟(ガマ)には、生きたくても生きられなかった人々の思いがあるように感じました。

今なお、世界では戦争や紛争が後を絶たず、多くの民間人が犠牲になっている現状があります。テレビから流れる映像は、あたかもゲームの中の世界のように見える時がありますが、その閃光の下では何人もの命が途絶えているはずです。リセットボタンを押しても戻ってこない命です。もし自分の身内がその閃光の下にいたらどう思うでしょうか。戦後に生まれ、平和な時代に生きてきた我々です。その当時の経験を聞ける機会も年々少なくなっています。その当時を生き抜いてきた方々に、その当時の思いを話していただくのはどんなに辛いことかもしれません。だからこそ、当時の現状を物語る資料や映像に触れることは意味のあることなのかもしれません。ひめゆり平和記念資料館をはじめ、知覧特攻平和会館、広島平和記念資料館、長崎平和資料館、東京大空襲戦災資料センター。他にも戦争の事実を伝える場所は数多く存在します。当時を生きていなかった自分達が、当時の苦しみをすることは出来ないかもしれませんが、日本が歩んできた(世界が歩んできた)歴史に触れることは大切なのではないかと思います。そして、皆さんと同じ年代の多くの尊い命が失われた歴史が、二度と繰り返されないようにするにはどうすればいいのか…。現代を生きる我々の課題です。



※右上の写真は、ガマから投降する人の写真です。